授業科目	＊成人慢性期看護学実習（2019 年度入学生）					単位	3
履　　修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免			ナンバリング	NU31313J
開講年次	3～4	開講時期	後期・前期	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2		
担当教員	大嶋　満須美、井手　裕子、中原　智美、飯野　祥之						
授業概要	【実務家教員担当科目】 臨床において患者・家族を対象とした看護の実務経験を有する教員が、臨地指導者と調整を図りながら以下の目標達成に向け、成人慢性期看護学実習を展開する。 【目標】 慢性病をもつ成人,あるいは終末期にある人の特性を理解し、患者およびその家族のセルフケア能力を高め、QOL の維持・向上を目指した看護を実践する能力を養う。 尚、実習施設の受け入れ状況により実習形態が変更する場合は、遠隔、あるいは学内において実習を行う。						
学生が達成すべき行動目標	1. 慢性病をもつ成人あるいは終末期にある人とその家族の特性について総合的に理解することができる。 2. 慢性病をもつ成人あるいは終末期にある人およびその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3. 慢性病をもつ成人あるいは終末期にある人の看護上の問題を明らかにし、個別性をふまえた看護を展開できる。 4. 慢性病をもつ成人あるいは終末期にある人に対して、生活の援助技術および診療に伴う援助技術を実践あるいは見学することで、看護を実践する能力を高めることができる。 5. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方を考えることができる。 6. 継続看護の必要性およびそのために活用できる社会資源について理解することができる。 7. 慢性病をもつ成人あるいは終末期にある人のケアを通して、人の生き方や QOL について思考を深め、看護観を育むことができる。 8. 看護専門職としての責務を認識し、倫理に配慮した態度をとることができる。 （具体的な行動目標は看護学実習要項を参照してください。）						

達成度評価

評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	40	0	0	60	100	
知識・理解（DP1-1）								
知識・理解（DP1-2）								
知識・理解（DP1-3）								
知識・理解（DP1-4）								
思考・判断（DP2-1）			16				16	
思考・判断（DP2-2）								
関心・意欲（DP3-1）						4	4	
関心・意欲（DP3-2）						16	16	
態度(DP4-1)						12	12	
態度(DP4-2)			12				12	
態度（DP4-3）						4	4	
技能・表現（DP5-1）						8	8	
技能・表現（DP5-2）			12			16	28	
技能・表現（DP5-3）								

具体的な達成の目安

理想的レベル	標準的なレベル

1．わずかな助言・指導があれば目標1～8が達成できる。 2．既習科目における関連知識や理論、技術を応用しながら患者を深く理解し、慢性期・終末期にある患者の個別性や、ニーズを捉えた適切な看護実践ができる。	1．教員や実習指導者の助言・指導を受けながら目標1～8が達成できる。 2．既習科目における関連知識や理論、技術を応用しながら患者を深く理解し、慢性期・終末期にある患者の個別性をふまえた看護実践ができる。

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	成人慢性期看護学実習は、3 年次後期から 4 年次前期にかけて、指定された病院で 3 週間、6 人程度のグループメンバーとともに実習します。 主に成人期の患者とその家族を対象に、健康レベルが慢性期、あるいは終末期にある人の看護を実践します。 実習内容およびスケジュールの詳細は、看護学実習要項を参照してください。尚、実習形態が変わる場合は、調整を行い、目標に沿った実習を行います。	臨地実習	実習で必要となる知識の確実な修得を目的として、3 年夏季休暇中に事前課題を課します。（テーマは後日提示します。） 実習中は、受け持ち患者の看護や実習病棟での看護実践に必要な自己学習および実習記録を行うことが毎日の課題となります。	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	①成人慢性期看護方法論、緩和・終末期看護学（がん看護含む）、成人・老年看護学演習をはじめ、人体の構造と機能、疾病論、基礎看護学など既習の科目で学んだ知識を結びつけながら看護展開を行っていきます。 ②基礎看護技術やフィジカルアセスメント、成人・老年看護学演習などで学んだ看護技術が必要となります。
テキスト	リンダ J.カルペニート；看護診断ハンドブック第 11 版 （医学書院）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	既習のすべての科目のテキスト、関連参考書、資料を活用します。 特に、「成人慢性期看護方法論」、「がん看護」、「緩和・終末期看護学」のテキスト・講義資料や、図書館の指定図書は積極的に活用して学習を進めてください。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	①受け持ち患者の疾病に関する病態、関連する検査・治療など、事前の自己学習が重要です。 ②実習に必要な基礎看護技術の自己練習をしておきましょう。 ③関連図書は身近に用意しておきましょう。 ④実習中は自己の健康管理が大切です。 ⑤困ったときは一人で悩まないで、教員・臨床指導者に相談してください。
達成度評価に関するコメント	評価は評価表を用いて評価する。 評価表は、「対象の理解」、「関係の形成」、「看護過程の展開」、「関連看護技術の実施」、「チーム医療・継続看護」、「看護観」、「職務と倫理性」の 7 つの評価領域を含み、看護実習上の知識・技術、実習態度、実習記録を含め総合的に評価する。